

4. 予防有用型における認定時の状態項目の変動

(1) 初回と2回目の予防有用型における基本情報の変動

予防有用型の各認定時の状態項目について初回と2回目、初回と3回目、初回と4回目の変化を分析した。この分析に際しては、順序尺度であり、データの正規性および等間隔性が保証されないため、ノンパラメトリック手法を用いて検定をした。

また麻痺等の2段階評価の場合においては、3段階以上の評価の評価では Wilcoxon の符号付順位和検定を用い、初回の状態項目結果とそれぞれの回の状態項目の結果を比較した。

この分析の結果、初回と2回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（その他）」、「両足での立位」、「歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「聴力」、「意思の伝達」、「毎日の日課を理解」、「被害的」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「暴言暴行」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」の46項目で有意な差が示された。

このうち初回から2回目にかけて悪化傾向が示された項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「意思の伝達」、「毎日の日課を理解」、「ひどい物忘れ」の10項目であり、のこりの36項目については改善傾向が示された。

改善が示された36項目のうち、「両足での立位や歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「両足での座位」、「両足つかない座位」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が向上したことが推察された。

また「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」といった日常生活動作において改善が示されていた。

「被害的な行動」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「暴言暴行」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。さらに「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 183 初回から2回目にかけて悪化傾向が示された基本情報

基本情報		P	
1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	皮膚疾患	0.00	**
6	つめ切り	0.00	**
7	金銭の管理	0.00	**
8	意思の伝達	0.02	*
9	毎日の日課を理解	0.00	**
10	ひどい物忘れ	0.04	*

*P<.05 **P<.01

表 184 初回から2回目にかけて改善傾向が示された基本情報

基本情報		P	
1	拘縮(その他)	0.02	*
2	両足での立位	0.00	**
3	歩行	0.00	**
4	移乗	0.00	**
5	片足での立位	0.00	**
6	洗身	0.00	**
7	じょくそう	0.00	**
8	食事摂取	0.00	**
9	口腔清潔	0.00	**
10	洗顔	0.00	**
11	整髪	0.00	**
12	上衣の着脱	0.00	**
13	ズボン等の着脱	0.00	**
14	薬の内服	0.00	**
15	聴力	0.00	**
16	被害的	0.00	**
17	幻視幻聴	0.00	**
18	昼夜逆転	0.00	**
19	暴言暴行	0.01	*
20	大声を出す	0.02	*
21	常時の徘徊	0.01	*
22	落ち着きなし	0.00	**
23	点滴の管理	0.00	**
24	気管切開の処置	0.02	*
25	じょくそうの処置	0.00	**
26	カテーテル	0.00	**
27	両足での座位	0.00	**
28	両足つかない座位	0.00	**

29	浴槽の出入り	0.00	**
30	便意	0.00	**
31	排尿後の後始末	0.00	**
32	排便後の後始末	0.00	**
33	ボタンのかけはずし	0.00	**
34	靴下の着脱	0.00	**
35	居室の掃除	0.02	*
36	周囲への無関心	0.00	**

*P<.05 **P<.01

(2) 初回と3回目の予防有用型における基本情報の変動

初回と3回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「麻痺（その他）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（その他）」、「起き上がり」、「両足での立位」、「移乗」、「片足での立位」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「金銭の管理」、「聴力」、「毎日の日課を理解」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「火の不始末」、「不潔行為」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「透析」、「気管切開の処置」、「モニター測定」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」の48項目で有意な差が示された。

初回から2回目において変動が示された項目に追加された項目としては、以下の8項目が新たに示された。このうち悪化傾向が示された項目は、起き上がり、短期記憶、今の季節を理解、透析であった。

表 185 初回と3回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

起き上がり	0.00	**
短期記憶	0.00	**
今の季節を理解	0.01	*
透析	0.00	**

*P<.05 **P<.01

表 186 初回と3回目に改善傾向が示された新たな基本情報

火の不始末	0.01	*
不潔行為	0.02	*
気管切開の処置	0.04	*
モニター測定	0.01	*

*P<.05 **P<.01

次に、初回から2回目には、何らかの変動が示された項目であったが、初回から3回目の変動には関係しなかった項目は、以下の6項目であった。これらの項目のうち、「歩行」、「薬の内服」、「被害的」、「暴言暴行」、「落ち着きなし」といった項目は、初回と3回目は同程度となったことを示している。また「意思の伝達」については、2回目に悪化した内容が初回のレベルとなったと推定される。

表 187 初回から2回目には変動傾向ありが3回目は、関連なしとなった項目

	初回⇔2回目	初回⇔3回目
歩行	0.00 **	0.12
薬の内服	0.00 **	0.05
意思の伝達	0.02 *	0.08
被害的	0.00 **	0.05
暴言暴行	0.01 *	0.45
落ち着きなし	0.00 **	0.88

*P<.05 **P<.01

このうち初回から3回目にかけて悪化傾向が示された項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「毎日の日課を理解」の8項目は、初回から2回目においても示された項目であった。

これらの項目に加えて「片足での立位」、「洗身」、「聴力」、「短期記憶」、「今の季節の理解」、「透析」、「居室の掃除」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」の9項目については、2回目には示されなかったが、3回目において初回と比較して悪化していた項目であった。

改善が示された31項目のうち、「起き上がり」、「両足での立位」や「歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「両足での座位」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が向上したことが推察された。

また、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「排尿後の後始末」や「排便後の後始末」、「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」、「薬の内服」といった日常生活に必要な動作等において改善が示されていた。

「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「不潔行為」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率や「火の不始末」といった危険な行動についても発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。

また、「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 188 初回から 3 回目にかけて悪化変動が示された基本情報

1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	片足での立位	0.01	*
6	洗身	0.00	**
7	皮膚疾患	0.00	**
8	つめ切り	0.00	**
9	金銭の管理	0.00	**
10	聴力	0.00	**
11	毎日の日課を理解	0.00	**
12	短期記憶	0.00	**
13	今の季節を理解	0.01	*
14	透析	0.00	**
15	居室の掃除	0.00	**
16	両足つかない座位	0.04	*
17	浴槽の出入り	0.00	**

*P<.05 **P<.01

表 189 初回から 3 回目にかけて改善傾向が示された基本情報

1	拘縮(その他)	0.00	**
2	起き上がり	0.00	**
3	両足での立位	0.00	**
4	移乗	0.00	**
5	じょくそう	0.00	**
6	食事摂取	0.01	*
7	口腔清潔	0.00	**
8	洗顔	0.00	**
9	整髪	0.00	**
10	上衣の着脱	0.00	**
11	ズボン等の着脱	0.00	**
12	薬の内服	0.00	**
13	幻視幻聴	0.00	**
14	昼夜逆転	0.00	**
15	大声を出す	0.03	*
16	常時の徘徊	0.01	*
17	火の不始末	0.01	*
18	不潔行為	0.02	*
19	ひどい物忘れ	0.00	**
20	点滴の管理	0.00	**
21	気管切開の処置	0.04	*
22	モニター測定	0.01	*
23	じょくそうの処置	0.00	**
24	カテーテル	0.00	**
25	両足での座位	0.00	**

26	便意	0.00	**
27	排尿後の後始末	0.00	**
28	排便後の後始末	0.00	**
29	ボタンのかけはずし	0.00	**
30	靴下の着脱	0.00	**
31	周囲への無関心	0.03	*

*P<.05 **P<.01

(3) 初回と4回目の予防有用型における基本情報の変動

初回と4回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「麻痺（その他）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（足関節）」、「拘縮（その他）」、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」、「移乗」、「立ち上がり」、「片足での立位」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「視力」、「聴力」、「毎日の日課を理解」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「同じ話をする」、「常時の徘徊」、「収集癖」、「火の不始末」、「不潔行為」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「透析」、「酸素療法」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「浴槽の出入り」、「片手胸元持ち上げ」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」の53項目で有意な差が示された。このように2回目は、46項目、3回目は、47項目と示されていたことから、認定回数が増加するごとに有意差が生じる項目数は増加していた。

このうち4回目に、はじめて有意差が示されることとなった項目は、「拘縮（足関節）」、「寝返り」、「立ち上がり」、「同じ話をする」、「収集癖」、「酸素療法」、「片手胸元持ち上げ」の7項目でこれらの項目のうち「片手胸元持ち上げ」を除く項目はすべて初回よりも4回目に悪化していた項目であった。また「洗身」、「大声を出す」、「両足つかない座位」の3項目は、2回目、3回目には、初回との有意差が示された項目であったが4回目には示されなかった。

初回から4回目にかけて悪化傾向が示された25項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「毎日の日課を理解」、「片足での立位」、「洗身」、「聴力」、「短期記憶」、「今の季節の理解」、「透析」、「居室の掃除」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」といった項目は、3回目までに初回と比較して悪化した項目として示されていた。

これに追加して「拘縮（足関節）」、「寝返り」、「起き上がり」、「立ち上がり」、「薬の内服」、「視力」といった項目に悪化の傾向がみられ、「同じ話をする」、「収集癖」、「ひどい物忘れ」といった問題行動が発生する割合も増加していた。さらに「酸素療法」の発生も増加していた。改善が示された28項目のうち、「両足での立位」、「移乗」、「両足での座位」、「片手胸元持ち上げ」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が

向上したことが推察された。

また「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「排尿後の後始末」や「排便後の後始末」、「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」、「薬の内服」といった日常生活に必要な動作等において改善が示されていた。

「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「不潔行為」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率や「火の不始末」といった危険な行動も発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。

さらに「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 190 初回と4回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

基本情報	2回目	3回目	4回目
拘縮(足関節)	0.61	0.08	0.01 *
寝返り	0.07	0.91	0.00 **
立ち上がり	0.70	0.08	0.00 **
同じ話をする	0.69	0.22	0.02 *
収集癖	0.43	0.14	0.00 **
酸素療法	0.80	0.56	0.04 *

*P<.05 **P<.01

表 191 初回と4回目に改善傾向が示された新たな基本情報

基本情報	2回目	3回目	4回目
片手胸元持ち上げ	0.66	0.17	0.01 *

*P<.05 **P<.01

表 192 初回から4回目にかけて悪化傾向が示された基本情報

1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	拘縮(足関節)	0.01	*
6	寝返り	0.00	**
7	起き上がり	0.00	**
8	立ち上がり	0.00	**
9	片足での立位	0.03	*
10	皮膚疾患	0.00	**
11	つめ切り	0.00	**

12	薬の内服	0.00	**
13	金銭の管理	0.00	**
14	視力	0.00	**
15	聴力	0.00	**
16	毎日の日課を理解	0.00	**
17	短期記憶	0.00	**
18	今の季節を理解	0.00	**
19	同じ話をする	0.02	*
20	収集癖	0.00	**
21	ひどい物忘れ	0.00	**
22	透析	0.00	**
23	酸素療法	0.04	*
24	浴槽の出入り	0.00	**
25	居室の掃除	0.00	**

*P<.05 **P<.01

表 193 初回から4回目に改善傾向が示された基本情報

1	拘縮(その他)	0.00	**
2	両足での立位	0.00	**
3	移乗	0.00	**
4	じょくそう	0.01	*
5	食事摂取	0.00	**
6	口腔清潔	0.00	**
7	洗顔	0.00	**
8	整髪	0.00	**
9	上衣の着脱	0.00	**
10	ズボン等の着脱	0.00	**
11	幻視幻聴	0.00	**
12	昼夜逆転	0.00	**
13	常時の徘徊	0.03	*
14	火の不始末	0.02	*
15	不潔行為	0.00	**
16	点滴の管理	0.00	**
17	中心静脈栄養	0.02	*
18	気管切開の処置	0.04	*
19	じょくそうの処置	0.00	**
20	カテーテル	0.00	**
21	両足での座位	0.00	**
22	片手胸元持ち上げ	0.01	*
23	便意	0.00	**
24	排尿後の後始末	0.00	**
25	排便後の後始末	0.00	**
26	ボタンのかけはずし	0.00	**
27	靴下の着脱	0.00	**
28	周囲への無関心	0.00	**

第10章 介護サービス利用単位の経年的変化

1. 認定時別の介護サービス単位（平均値）の変動

なお、サービスの種別については、以下の21種類別に集計を行った。

表 194 短縮名称一覧

分析番号	分析用サービス種類	短縮名称
01	訪問介護（身体介護）	身体
02	訪問介護（身体介護と家事援助）	身家
03	訪問介護（家事援助）	家事
04	訪問入浴	入浴
05	訪問看護	看護
06	訪問リハビリテーション	訪リ
07	通所介護	通介
08	通所リハビリテーション	通り
09	福祉用具貸与（車いす関連）	いす
10	福祉用具貸与（特殊寝台関連）	寝台
11	福祉用具貸与（その他）	他貸
12	短期入所生活介護（介護老人福祉施設）	短福
13	短期入所生活介護（介護老人保健施設）	短保
14	短期入所生活介護（介護療養型医療施設）	短医
15	居宅療養管理指導（医師・歯科医師）	指医
16	居宅療養管理指導（医師・歯科医師以外）	指他
17	認知症対応型共同生活介護	認知
18	特定施設入所者生活介護	特定
19	介護老人福祉施設	福施
20	介護老人保健施設	保施
21	介護療養型医療施設	医施

(1) 全体における介護サービス利用単位の経年的変化

介護サービス利用単位の経年的変化について、対象者全体と予防有用型の各認定時の1人当たりの平均値を比較した。どの認定時においても療養施設が高かった。上位は、施設系サービスであり、平均が20万単位を超えていた。

サービス利用単位は多い順に、療養施設、保健施設、福祉施設、認知症対応、特定施設、短期生活、短期医療、短期保健と施設系が続き、次いで、通所リハ、通所介護と通所系のサービスへと続き、訪問介護(身体・家事)、訪問入浴、訪問介護(身体)、訪問看護、訪問リハ、訪問介護(家事)と訪問系にサービスへと続いていた。この次として、用具貸与や療養管理が続くが、用具では、特殊寝台が多く、ついで車いすとなっていた。この傾向は、初回から4回までほとんど変わっていなかった。

平均利用単位は、8773.0で、初回の利用単位の平均単位は、7999.2、2回目は、8609.1、3回目は、8956.1、4回目は9527.6と認定回数が増えるにしたがって増加していた。

一方、予防有用型も全体と同様に、施設系の療養施設が最も多く、次いで保健施設、福祉施設、認知症対応、特定施設と続くが、全体よりも短期医療の利用単位が短期生活よりも多く、順番としては異なっていた。次いで短期保健が高く、通所リハの次は、訪問入浴となっていた。全体では、訪問入浴の利用は少なかったが、予防有用型では多く示された。次に多かったのは、通所介護、訪問介護(身体・家事)、訪問看護と示され、予防有用型においては、訪問介護よりも訪問看護のほうが多かった。次いで訪問介護(身体)、訪問リハ、訪問介護(家事)、用具貸与(特殊寝台)、用具貸与(車いす)、療養管理(その他)、療養管理(医師・歯科医師)、用具貸与(その他)となっていた。

このように予防有用型では、短期医療や、訪問入浴や訪問看護の利用単位が他の介護サービスよりも多く、全体の利用順位の降順と異なっていた。初回の平均利用単位は、7300.5、2回目は、8148.5、3回目は、8374.3、4回目は8537.2と増加し、4回の平均は、8090.1単位と全体よりも低い単位数であった。

表 195 全体における介護サービス利用単位の経年的変化（平均値降順）

サービス	初回	2回目	3回目	4回目	平均
療養施設	31048.8	32943.2	32603.7	34659.6	32813.8
保健施設	23621.0	26398.7	26773.8	28135.8	26232.3
福祉施設	24366.6	25257.3	25573.4	26259.1	25364.1
認知症対応	21700.2	23085.1	23617.4	24353.4	23189.0
特定施設	15119.0	15424.3	15900.6	16896.5	15835.1
短期生活	7576.9	7744.1	8829.5	9972.7	8530.8
短期医療	6267.2	6827.0	9054.3	11071.8	8305.1
短期保健	6463.9	6467.4	8148.4	8888.0	7491.9
通所リハ	5239.3	6283.7	6508.1	6907.2	6234.6
通所介護	3855.2	4833.3	5338.5	5826.0	4963.3
訪問介護(身体・家事)	3911.0	4637.1	4813.2	5355.8	4679.3
訪問入浴	3971.1	4856.5	4726.8	4957.6	4628.0
訪問介護(身体)	3384.3	3657.7	3738.9	4033.9	3703.7
訪問看護	3482.1	3801.3	3650.7	3785.3	3679.9
訪問リハ	1867.1	2058.7	2164.0	2107.4	2049.3
訪問介護(家事)	1675.3	1900.7	2010.6	2165.0	1937.9
用具貸与(特殊寝台)	1408.1	1451.6	1438.9	1445.9	1436.1
療養管理(その他)	964.1	988.4	1029.5	1030.5	1003.1
用具貸与(車いす)	857.0	917.2	920.6	931.7	906.6
療養管理(医師・歯科医師)	746.9	757.8	749.0	766.6	755.1
用具貸与(その他)	458.8	499.2	487.6	529.0	493.7
認定時の平均利用	7999.2	8609.1	8956.1	9527.6	8773.0

図 全体における介護サービス利用単位の経年的変化（平均値降順）

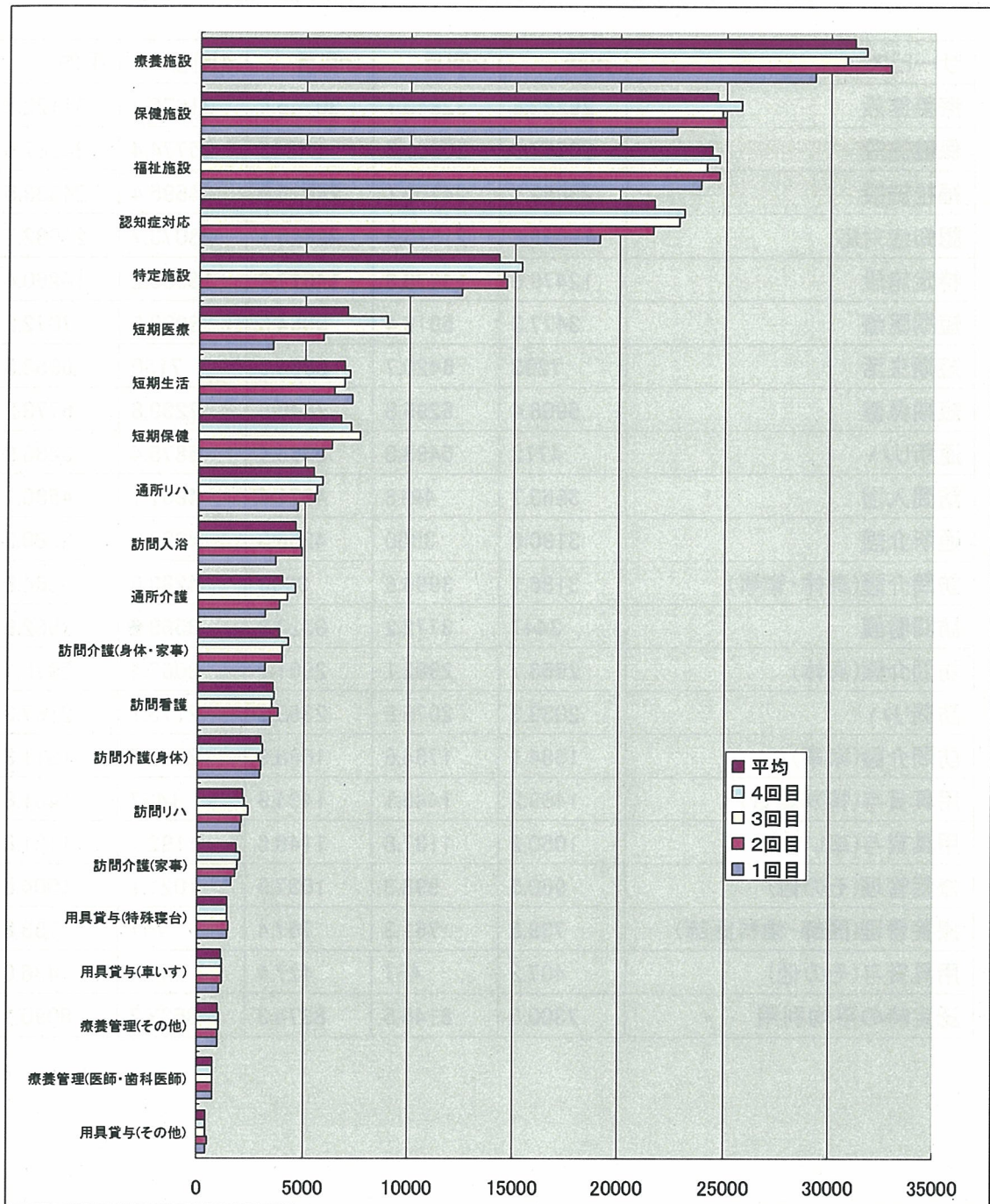
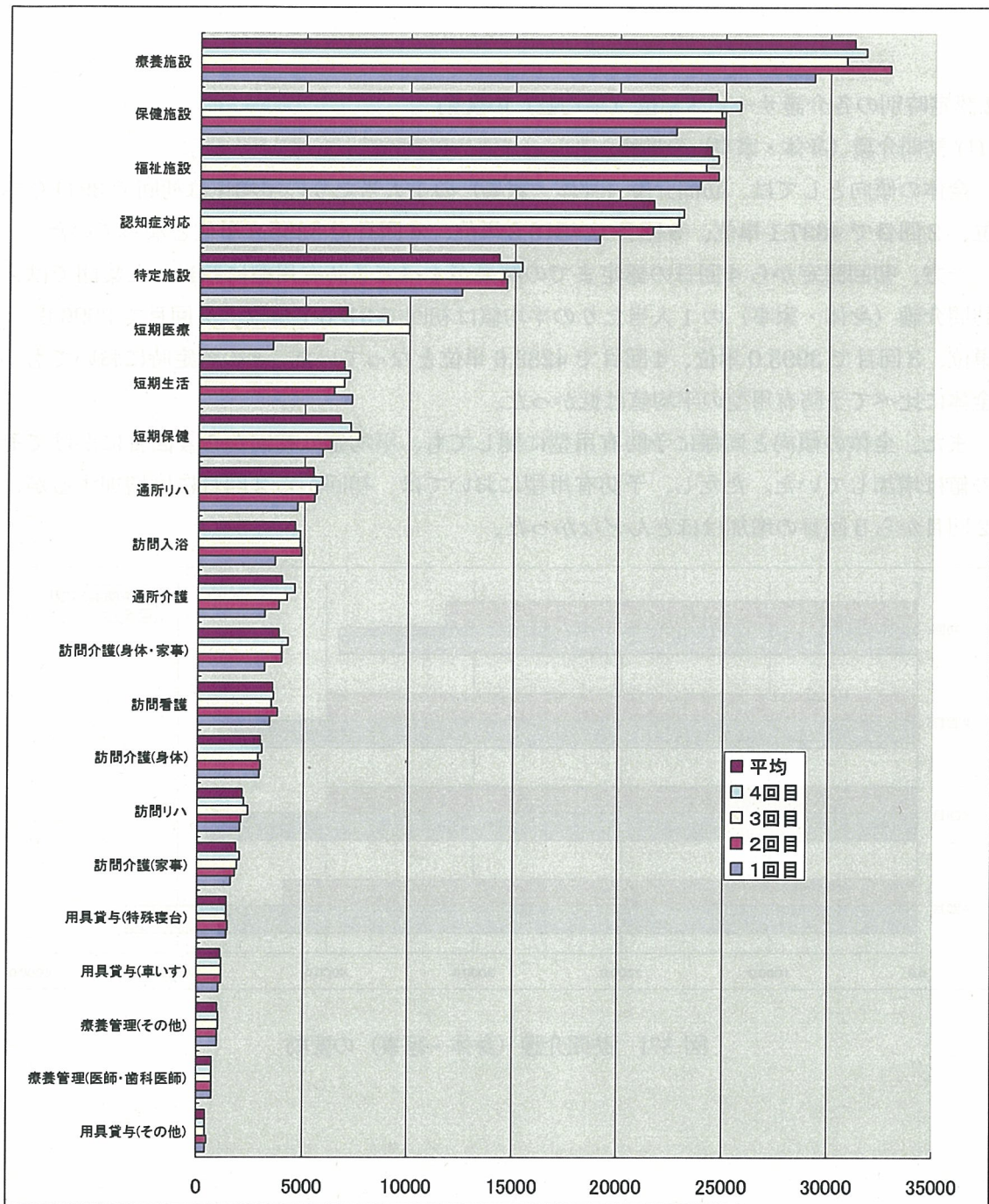


表 196 予防有用型における介護サービス利用単位の経年的変化

サービス	初回	2回目	3回目	4回目	平均
療養施設	29223.4	32843.1	30746.4	31676.2	31122.3
保健施設	22702.9	25029.5	24843	25774.4	24587.5
福祉施設	23852.7	24709.1	24076.9	24695.4	24333.5
認知症対応	19056.8	21575.3	22825.1	23073.7	21632.7
特定施設	12479.6	14678.3	14517.6	15366.2	14260.4
短期医療	3477.3	5913.4	9964.6	8933.5	7072.2
短期生活	7293	6420.7	6950.3	7150	6953.5
短期保健	5908.4	6295.8	7648.6	7239.8	6773.2
通所リハ	4712	5493.8	5666.4	5875.4	5436.9
訪問入浴	3663.7	4918	4871.4	4867.1	4580.1
通所介護	3190.6	3850	4256.3	4624.3	3980.3
訪問介護(身体・家事)	3186.1	3996.6	3993	4283.6	3864.8
訪問看護	3447	3772.2	3523.3	3589.2	3582.9
訪問介護(身体)	2953.7	2982.1	2901.1	3067.4	2976.1
訪問リハ	2033.3	2076.5	2383.3	2176.1	2167.3
訪問介護(家事)	1564.1	1754.6	1888.9	2037.7	1811.3
用具貸与(特殊寝台)	1409.2	1446.1	1434.9	1437	1431.8
用具貸与(車いす)	1050.2	1137.8	1146.6	1192.7	1131.8
療養管理(その他)	960.5	998.3	1037.9	1021.1	1004.5
療養管理(医師・歯科医師)	739.5	761.3	757.4	757	753.8
用具貸与(その他)	407.2	467	427.4	442.4	436.0
認定時の平均利用	7300.5	8148.5	8374.3	8537.2	8090.1



2.認定時別の各介護サービス単位（平均値）の変動

(1) 訪問介護（身体・家事）の推移

全体の傾向としては、訪問介護（身体・家事）の1人当たりの平均値は初回で3911.0単位、2回目で4637.1単位、3回目で4813.2単位、4回目で5355.8単位となっていた。

一方、初回認定から4回目の認定までの結果がすべて予防有用型に該当した集団では、訪問介護（身体・家事）の1人当たりの平均値は初回で3186.1単位、2回目で3996.6単位、3回目で3993.0単位、4回目で4283.6単位となっていた。どの認定時においても、全体に比べて予防有用型の平均値は低かった。

また、全体の傾向と同様に予防有用型に関しても、平均値は初回から4回目にかけてその値は増加していた。ただし、予防有用型においては、初回から2回目には増加するが、2回目から3回目の増加はほとんどなかった。

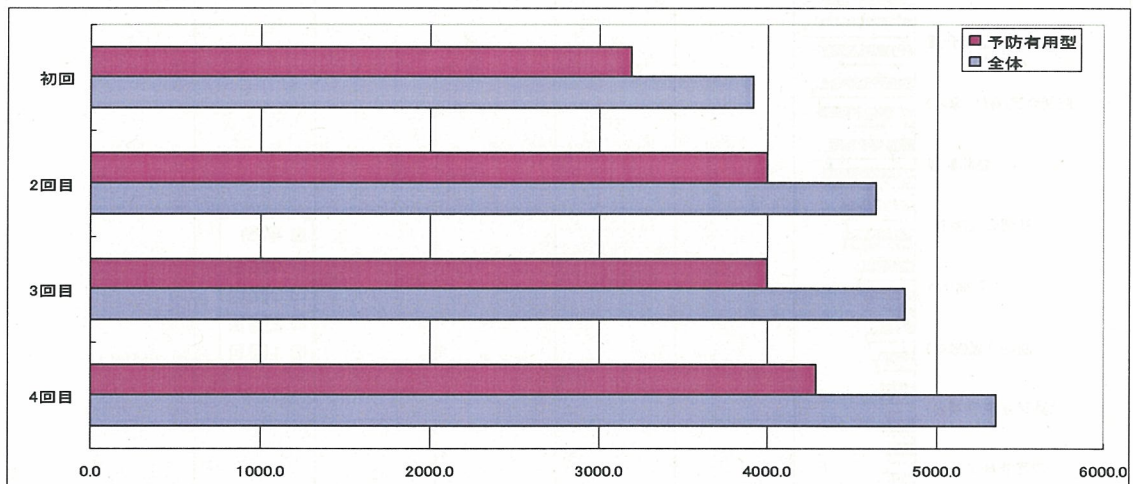


図 371 訪問介護（身体・家事）の変動

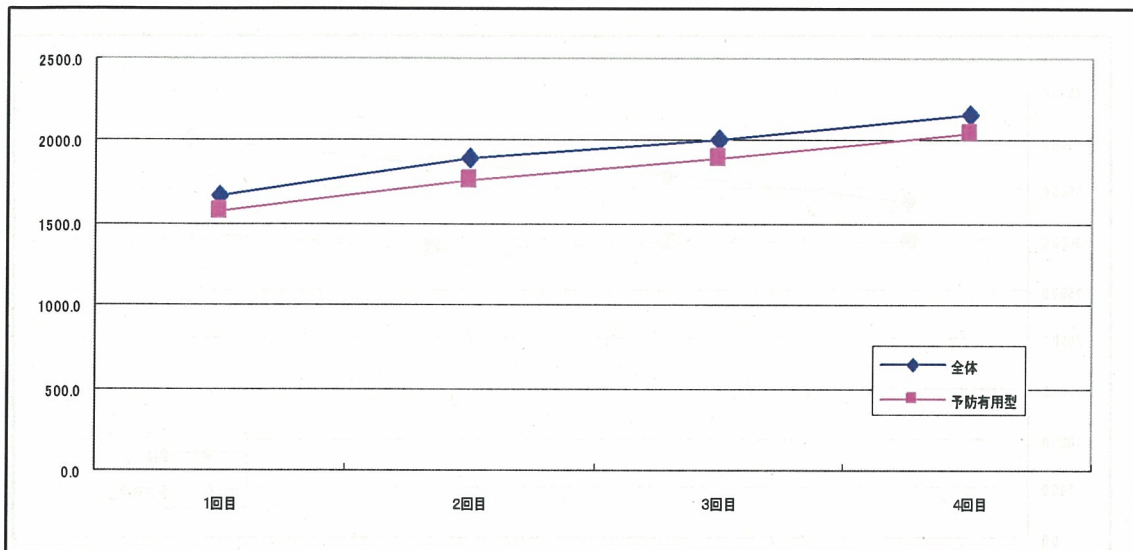


図 372 訪問介護(家事)の経年的変化

(2) 訪問介護（身体）の変動

全体の傾向としては、訪問介護（身体）の1人当たりの平均値は初回で3384.3単位、2回目で3657.7単位、3回目で3738.9単位、4回目で4033.9単位となっていた。

一方、初回認定から4回目の認定までの結果がすべて予防有用型に該当した集団では、訪問介護（身体）の1人当たりの平均値は初回で2953.7単位、2回目で2982.1単位、3回目で2901.1単位、4回目で3067.4単位となっていた。どの認定時においても、全体に比べて予防有用型の平均値は低かった。

また、全体の傾向と比べ、予防有用型は、平均値は初回から4回目にかけて、ほとんど変化していなかった。

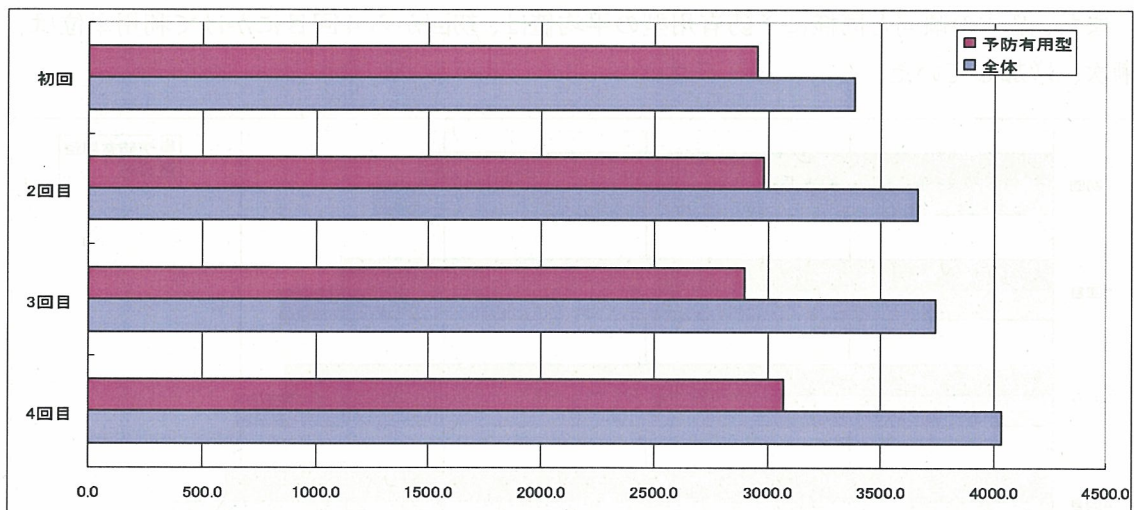


図 373 訪問介護（身体）の変動

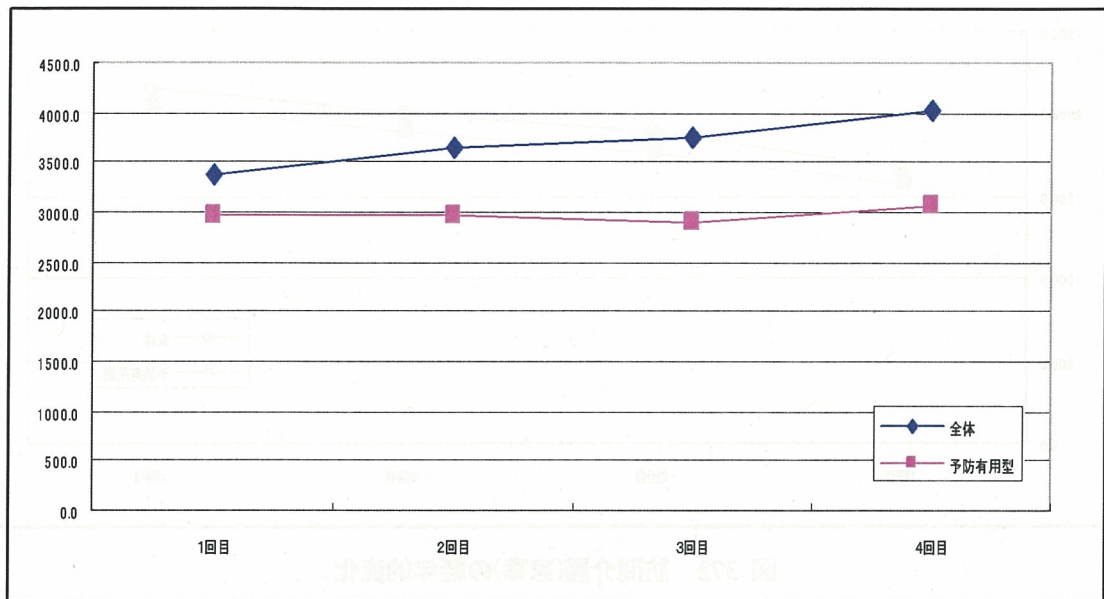


図 374 訪問介護(身体)の経年的変化

(3) 訪問介護 (家事)

全体の傾向としては、訪問介護 (家事) の 1 人当たりの平均値は初回で 1675.3 単位、2 回目で 1900.7 単位、3 回目で 2010.6 単位、4 回目で 2165.0 単位となっていた。

一方、初回認定から 4 回目の認定までの結果がすべて予防有用型に該当した集団では、訪問介護 (家事) の 1 人当たりの平均値は初回で 1564.1 単位、2 回目で 1754.6 単位、3 回目で 1888.9 単位、4 回目で 2037.7 単位となっていた。すべての認定時において全体に比べて予防有用型の平均値は低かった。

また、全体の傾向と同様に予防有用型の平均値は、初回から 4 回目にかけて利用単位は、漸次、増加していた。

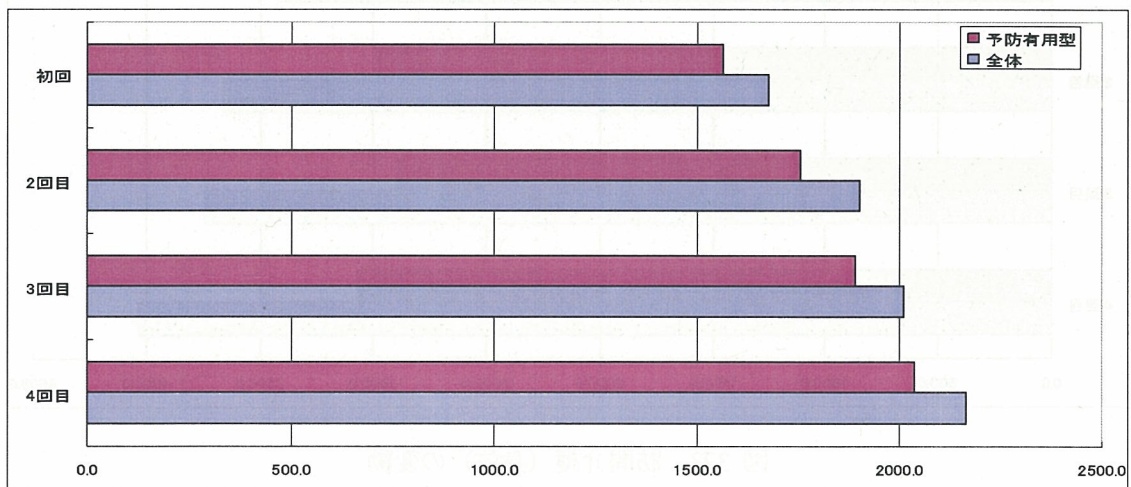


図 375 訪問介護(家事)の変動

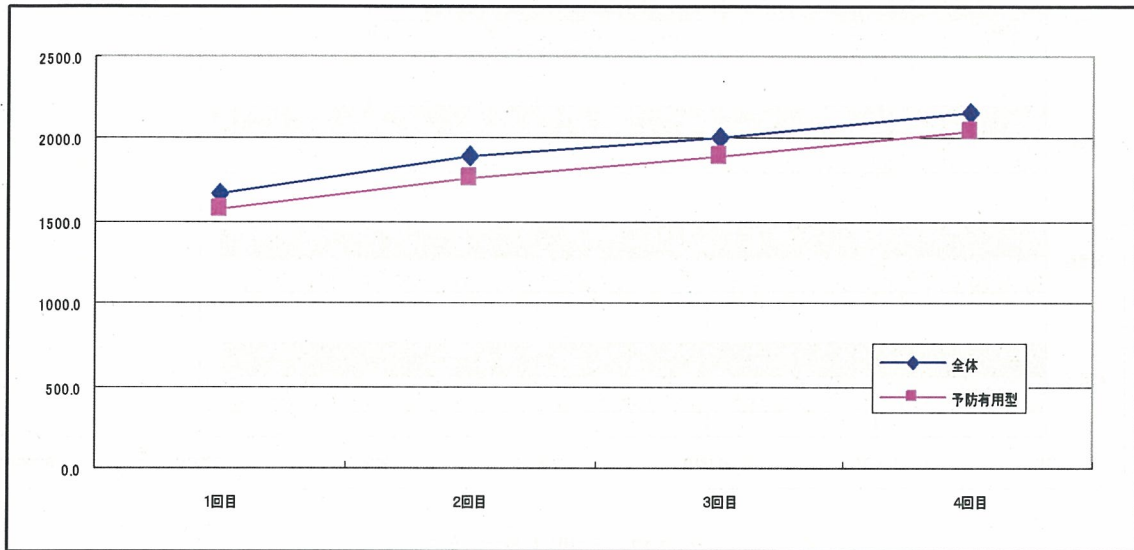


図 376 訪問介護(家事)の経年的変化

(4) 訪問入浴

全体の傾向としては、訪問入浴の1人当たりの平均値は初回で3971.1単位、2回目で4856.5単位、3回目で4726.8単位、4回目で4957.6単位となっていた。

一方、初回認定から4回目の認定までの結果がすべて予防有用型に該当した集団では、訪問入浴の1人当たりの平均値は初回で3663.7単位、2回目で4918.0単位、3回目で4871.4単位、4回目で4867.1単位となっていた。

2回目と3回目は予防有用型の平均値は全体よりも高かったが、初回と4回は、全体に比べて予防有用型の平均値が低かった。

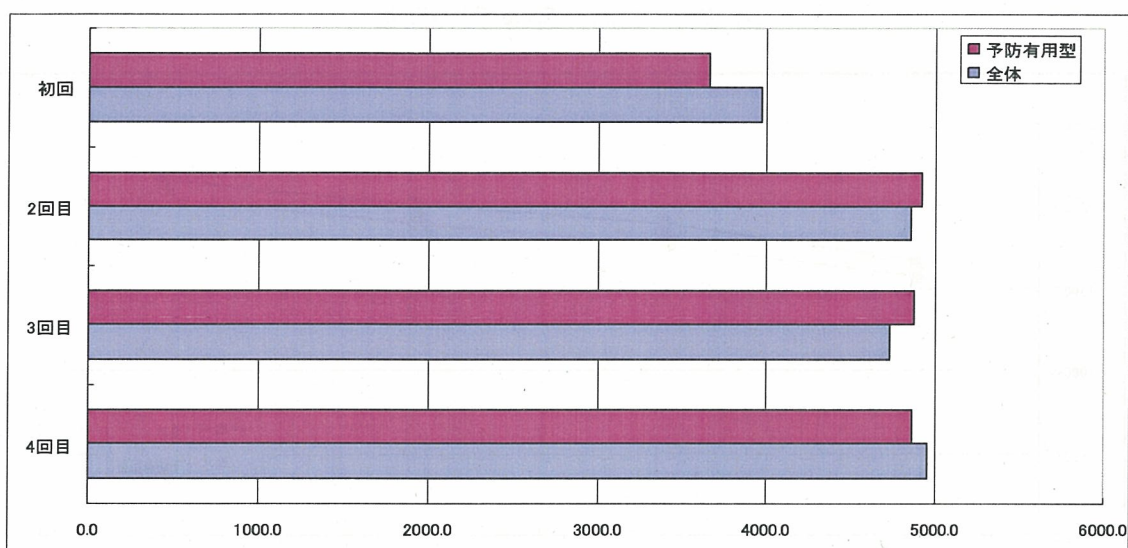


図 377 訪問入浴の変動

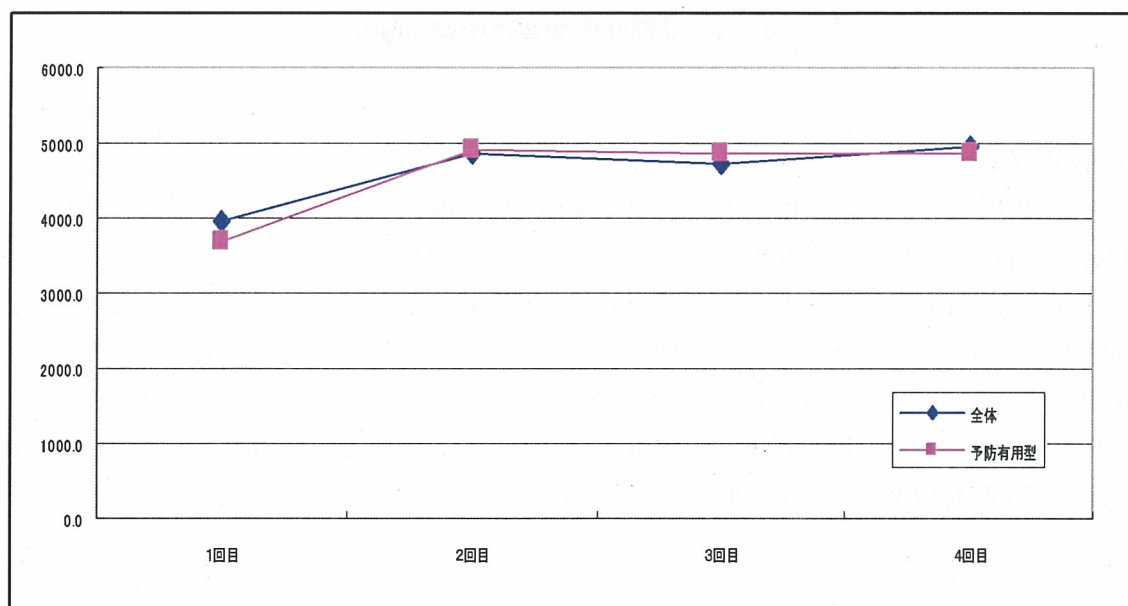


図 378 訪問入浴の経年的変化

(5) 訪問看護

全体の傾向としては、訪問看護の 1 人当たりの平均値は初回で 3482.1 単位、2 回目で 3801.3 単位、3 回目で 3650.7 単位、4 回目で 3785.3 単位となっていた。

一方、初回認定から 4 回目の認定までの結果がすべて予防有用型に該当した集団では、訪問看護の 1 人当たりの平均値は初回で 3447.0 単位、2 回目で 3772.2 単位、3 回目で 3523.3 単位、4 回目で 3589.2 単位となっていた。どの認定時においても、全体に比べて予防有用型の平均値は低かった。また、全体の傾向と同様に予防有用型に関しても、平均値

は2回目に最も高い値を示していた。

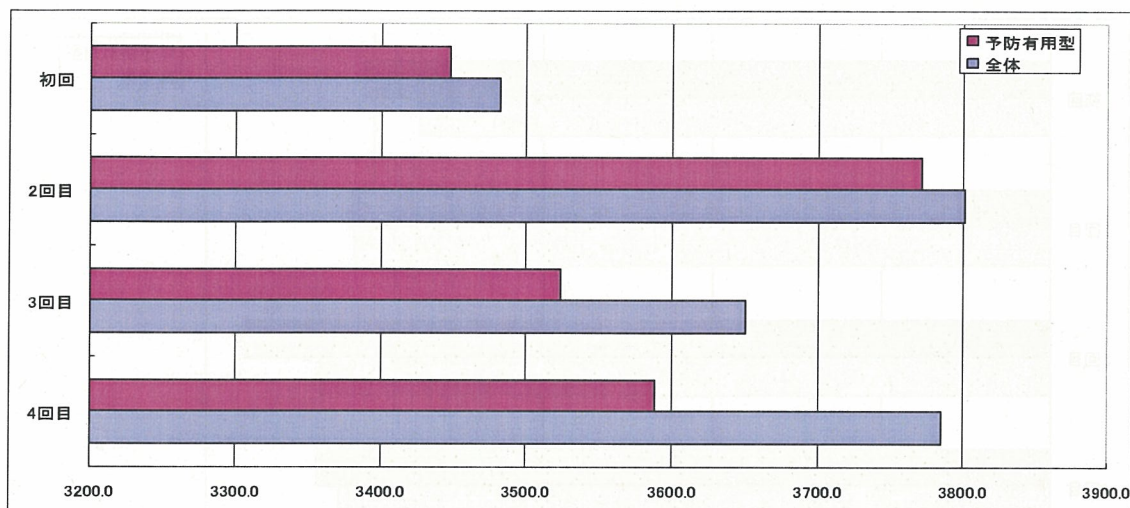


図 379 訪問看護の変動

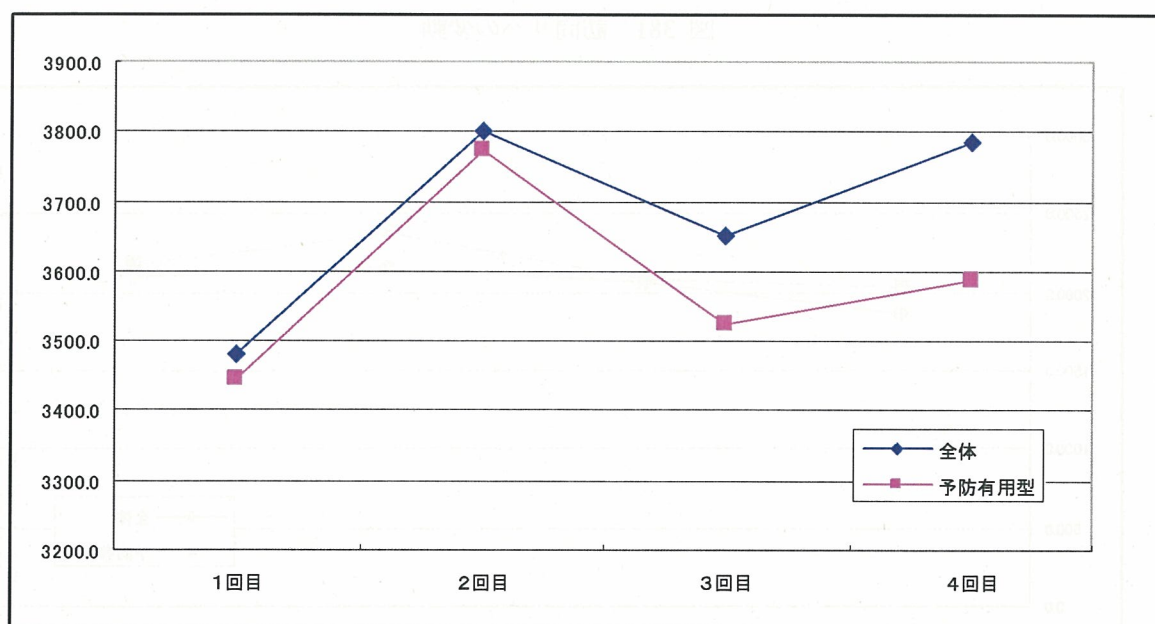


図 380 訪問看護の経年的変化

(6) 訪問リハ

全体の傾向としては、訪問リハの1人当たりの平均値は初回で1867.1単位、2回目で2058.7単位、3回目で2164.0単位、4回目で2107.4単位となっていた。

予防有用型に該当した集団では、訪問リハの1人当たりの平均値は初回で2033.3単位、2回目で2076.5単位、3回目で2383.3単位、4回目で2176.1単位となっていた。どの認定時においても、全体に比べて予防有用型の平均値は高かった。また、全体の傾向と同様